

1月のてがたんにご参加いただきありがとうございました。てがたんの観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。次回2月のてがたんは2月11日(土)で、テーマは「気にならない木を気にしてみる冬の散歩道」です。

* 市民スタッフの方へ 次回のとがたん下見は、2月5日(日)の9:30からです。午後1時から来年度の打ち合わせを行いますので、よろしくお願いいたします。

1月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→親水広場→市民農園→藤棚
- 観察日時と天気：2016年1月14日(土) 10:00~12:00 晴れ
- 市民スタッフ：6人 (木村稔、蒲田知子、伊東茂子、寒江洋次、竹本周平、保田行弘)
- 鳥博職員：2人 (小田谷嘉弥・美濃亜理彩)

観察した生き物の記録

【鳥類】

カモ科：オカヨシガモ、ヒドリガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ/カイツブリ科：カイツブリ、カンムリカイツブリ/ハト科：キジバト/ウ科：カワウ/サギ科：アオサギ、ダイサギ、コサギ/クイナ科：クイナ(声のみ)、オオバン/カモメ科：ユリカモメ、カモメ、ニシセグロカモメ/タカ科：オオタカ/カワセミ科：カワセミ/キツツキ科：コゲラ/モズ科：モズ/カラス科：ハシブトガラス、ハシボソガラス/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/エナガ科：エナガ/メジロ科：メジロ/ムクドリ科：ムクドリ/ヒタキ科：アカハラ、ツグミ、ジョウビタキ(声のみ)/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ/ホオジロ科：ホオジロ、カシラダカ、アオジ、オオジュリン(声のみ)
 家禽や外来種：コブハクチョウ(カモ科)、ドバト(ハト科)

【昆虫】カイガラムシの仲間(半翅目)

【魚】モツゴ(コイ科)

【花・実】

[花]キク科：ノゲシ、セイヨウタンポポ、ノボロギク、ハハコグサ、オニノゲシ/アブラナ科：タネツケバナ、ナズナ/シソ科：ホトケノザ、ヒメオドリコソウ/キンポウゲ科：タガラシ/オオバコ科：オオイヌノフグリ/ナデシコ科：コハコベ、オランダミミナグサ/ツバキ科：ヤブツバキ、サザンカ/ヒガンバナ科：スイセン/ウコギ科：ヤツデ
 [実]バラ科：ノイバラ

観察した生き物の記録



今回のてがたんのテーマは「冬鳥をじっくり観察しよう」でした。手賀沼遊歩道を歩きながら、多くの冬鳥の暮らしぶりに注目してじっくり観察することができました。



今月の案内人 木村稔さん、蒲田知子さん



① 博物館前のコブシのふさふさの花芽



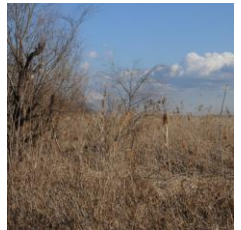
② ヨシ原の中で休んでいたアオサギ



③ 芝生で草を食べていたオオバン



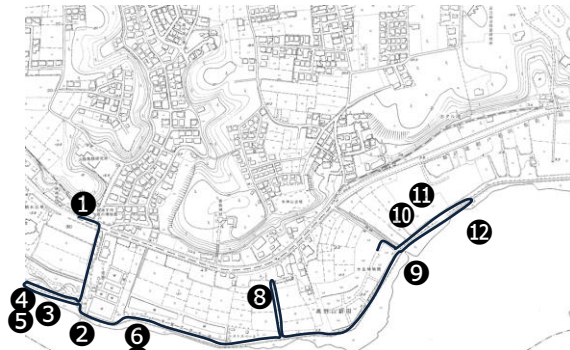
④ 水辺の枝から魚を狙っていたカワセミの雄



⑥ 沼沿いのヨシ原は冬鳥観察のポイントです



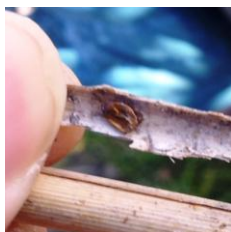
⑤ カッパの噴水で休むニシセグロカモメ。当日は脚の色が見られませんでした。この写真の様に黄色みがあります



歩いたルートと観察した生き物



⑪ エナガが警戒声を出して存在を教えてくれたオオタカの幼鳥。冬は猛禽類が見やすい季節です



⑦ ヨシの茎の中にあるカイガラムシの仲間



⑧ 水を張ったハス田で餌を探っていたハクセキレイ



⑨ 岸辺にいたコガモの群れ。今回は雌が多かった



⑩ 群れで行動していたエナガ



⑫ 人工植生帯の干潟にいたオジロトウネン

今月の鳥 セグロカモメ チドリ目カモメ科

セグロカモメは、カラスくらいの大きさで、白色の体に灰色の背、翼の先端が黒いカモメです。手賀沼では毎年秋から冬にかけて、沼全体で数羽が越冬しています。親水広場の噴水でよく休んでいる個体は、近縁種のニシセグロカモメという種類です。ニシセグロカモメは、脚の色が黄色みを帯びること、セグロカモメよりも背の灰色が少し濃いことなどの違いがあります。どちらもロシアのツンドラで繁殖し、日本には越冬のために長い距離を渡ってきます。セグロカモメの仲間は頭部の特徴に個性が大きく、慣れると標識などがなくても個体識別できます。あなたも手賀沼のカモメと顔なじみになってみませんか。



セグロカモメの脚はピンク色